

# コンテンツ時代におけるフランス映像産業についての検証と考察

大阪市立大学 文学研究科 畔堂洋一

## ●研究目的、先行研究、研究の意義

### ■研究目的

「芸術的フランス映画」の特徴を量的研究の手法により分析することで、国家的な映画支援を考えるにあたって、資金的な助成をなすべきポイントを明らかにする。

### ■先行研究

- ・これまでのフランス映像産業についての研究（中川 2003 など）は全体的にシステム論に偏っている節があった。
- ・フランス映像産業のシステムによって生産される芸術性を売りにするフランス映画（「芸術的フランス映画」）がどういったものなのかが分析されていない。
- ※林（2011）などから、フランスの映画監督が考える「芸術的フランス映画」について読み取ることはできる。
- ⇒フランスの映画webサイトAlloCinéを利用して、コメントコーパスを作成し、量的手法により客観的に「芸術的フランス映画」の特徴を分析していく。

### ■研究の意義

客観的な視点からの「芸術的フランス映画」の分析を交えたフランス映像産業論である本研究は、日本がフランス式の映画産業支援のシステムを導入、運営していくことに貢献できるのではないかと。 ※「日本版CNC設立を求める会」

## ●研究内容

### ■複雑なフランス映像産業システムにある4つの制度

国立映画・映像センター（Centre national du cinéma et de l'image animée : CNC）、テレビ局に対する映画製作にかかる資金的支援義務、テレビ局の映画放映にかかる放送割当制（クォーター制）、メディアに関する「タイムライン」（Chronologie des médias）⇒図2。

### ■国家（フランス政府）、フランス映像産業、「芸術的フランス映画」のトライアングル、文化的例外（exception culturelle）=文化多様性（diversité culturelle）の概念 ⇒図3。

### ■「芸術的フランス映画」に関する共起ネットワーク図

Cahiers du CinémaのTop10にランクインされた2000年から2017年までの48作品が対象 ⇒図4。

### ★参考文献

- ・特定非営利活動法人映像産業振興機構（2021）『フランスにおける映画振興に対する助成システム等に関する実態調査』。
- ・中川洋吉（2003）『生き残るフランス映画』、希林館。
- ・林瑞絵（2011）『フランス映画どこへ行くーヌーヴェル・ヴァーグから遠く離れて』、家伝社
- ・Le Diberder, Alain. （2019）La nouvelle économie de l'audiovisuel, La Découverte, Paris.
- ・Walkley, Sarah. （2018）Cultural Diversity in the French Film Industry : Defending the Cultural Exception in a Digital Age, Springer International Publishing AG.

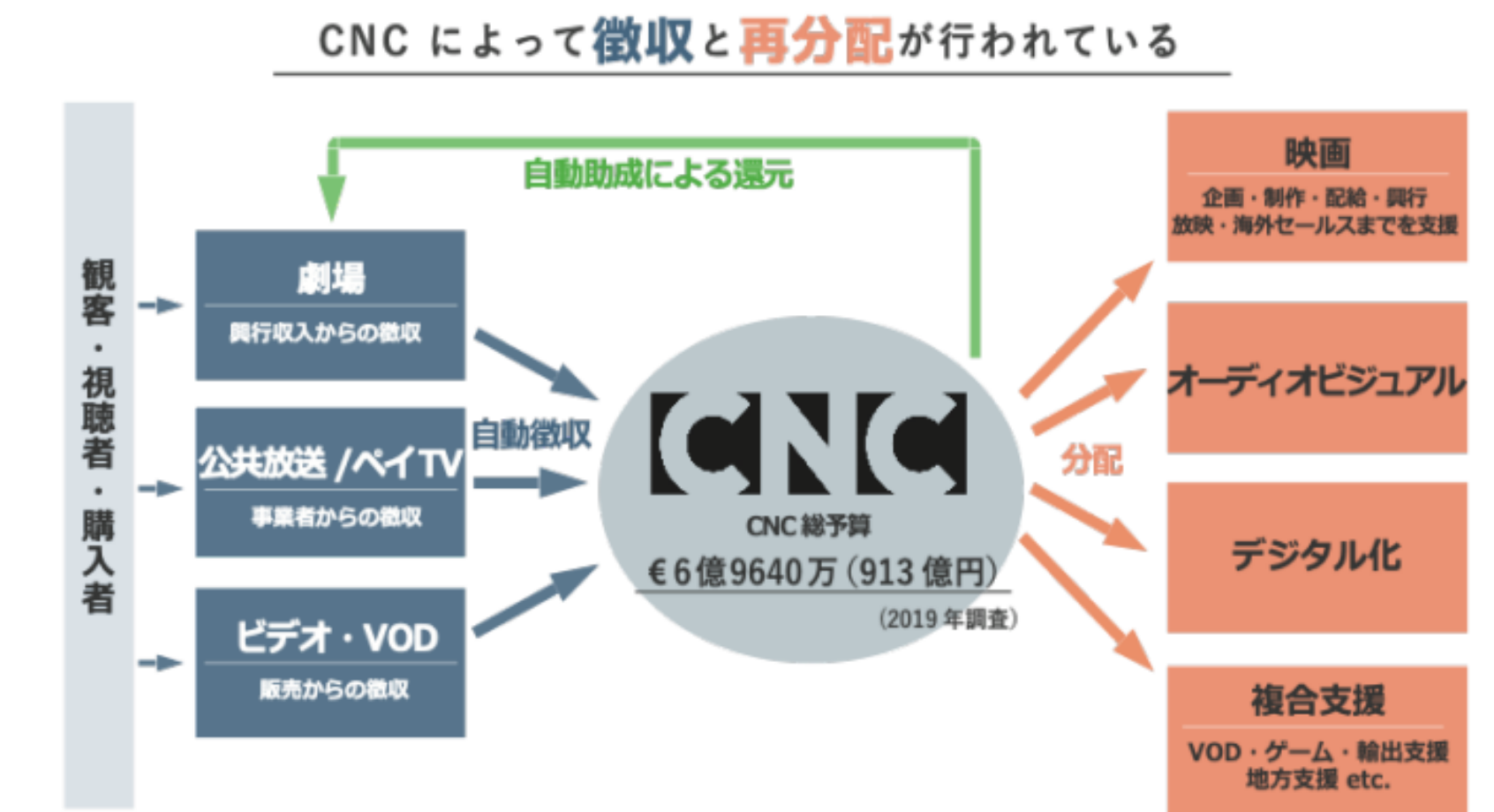


図1：CNCとは何か

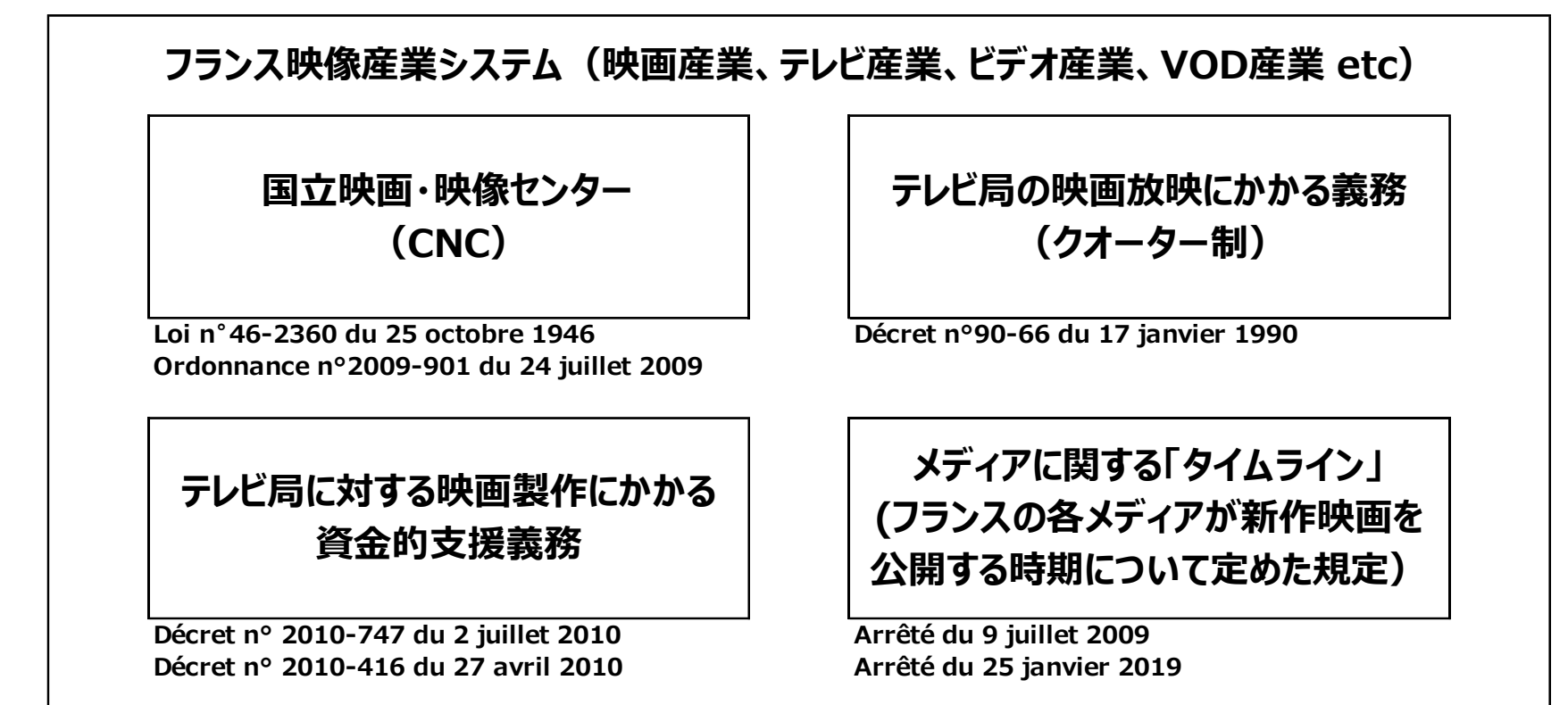


図2：フランス映像産業システムにある4つの制度

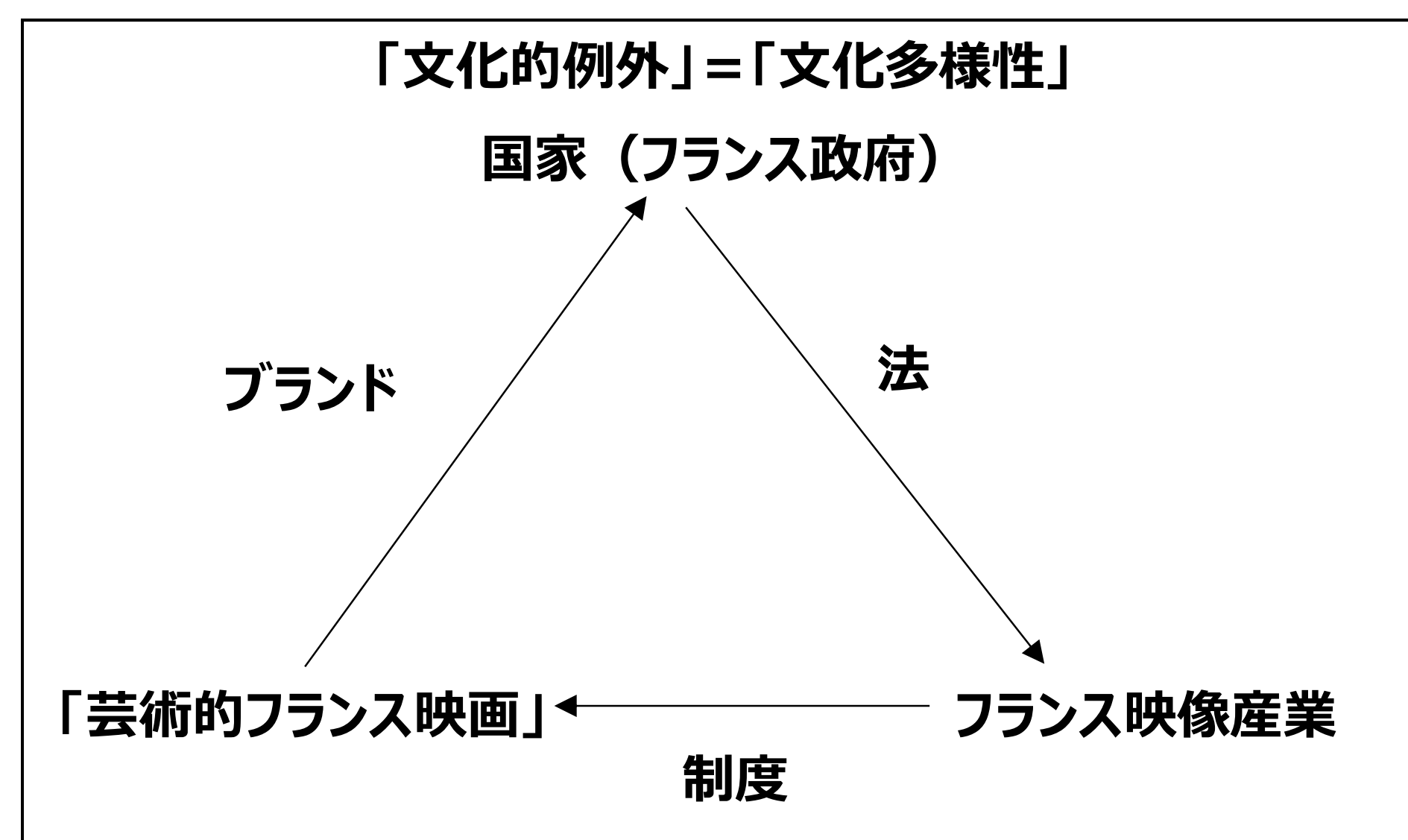
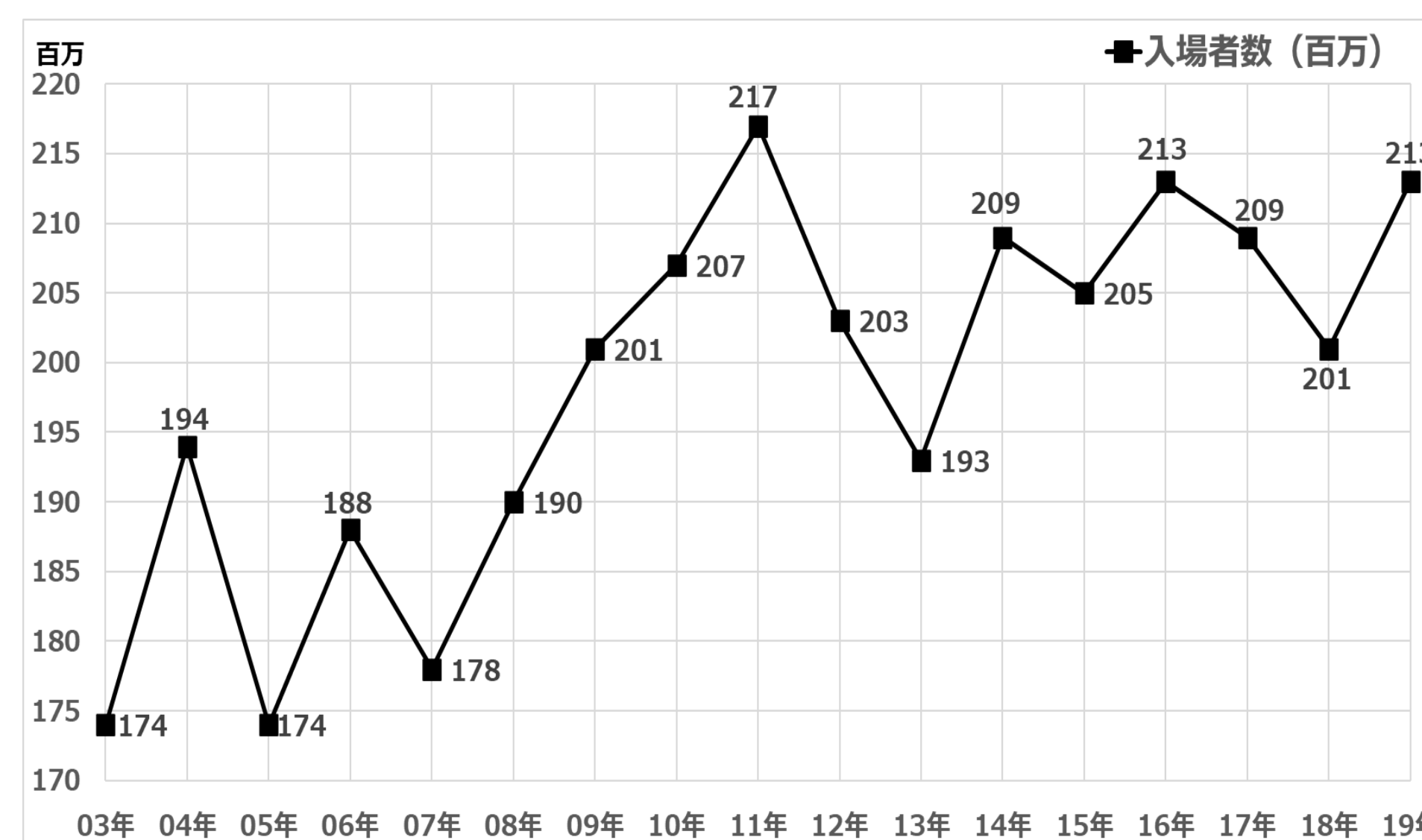


図3：国家、フランス映像産業、「芸術的フランス映画」



グラフ：フランスにおける映画館入場者数

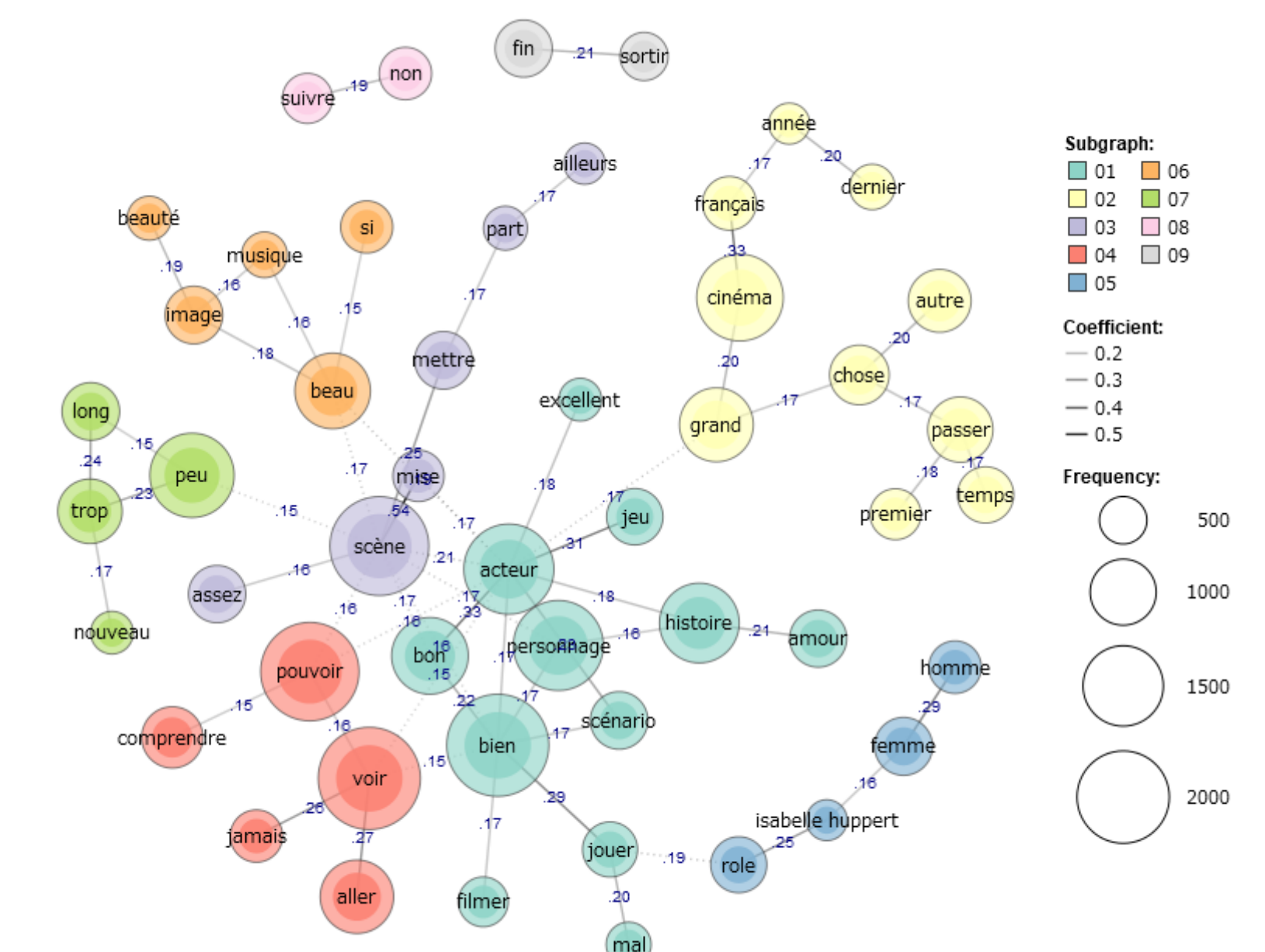


図4：48作品の共起ネットワーク図